

キリスト教<キリスト教>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教入門	ET/PC	11101	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	必修	2			

授業の到達目標

現代の文化に大きな影響を与えているキリスト教についての理解を深める。また世界で多くの信徒がいるイスラム教や仏教についても基礎知識を身につける。信教の自由は、自分が選んだ宗教を信仰できるといふ権利であるとともに、他人の信仰を尊重するという義務でもある。従って、どの宗教を選ばしる、いかなる宗教も信じないにしろ、さまざまな宗教について知っておくことは必要である。この授業を通して、K A I S E I パーソナリティの異文化理解のIn(国際性)とキリスト教が説く他者に対する隣人愛、K(思いやり)の心を養う。

授業の概要

キリスト教は西暦1世紀に現在のパレスティナに成立し、現在では世界の3大宗教のひとつとされ、現代の文明に計り知れない影響を与えていることは周知の事実である。では、キリスト教とは何か。本講義では、世界の主要な宗教を概観してキリスト教の位置を確認するとともに、ユダヤ人の歴史などキリスト教の成立の背景を考察し、キリスト教の基本的な教えと、その後の発展を検討する。

授業計画

- 1.はじめに 宗教とは
- 2.世界の三大宗教(仏教)
- 3.世界の三大宗教(イスラム教)
- 4.創造神話
- 5.アブラハム
- 6.出エジプト
- 7.カナンへの帰還
- 8.王国の成立と発展
- 9.王国の分裂
- 10.バビロン捕囚
- 11.ユダヤ教の成立とメシア待望
- 12.ナザレのイエス—その生涯
- 13.イエスの宣教
- 14.イエスの裁判、十字架上の死と復活
- 15.キリスト教の成立と発展

授業の方法

講義、発問、討議

準備学修

信仰に関係なく聖書は人類の重要な遺産であり、現代人にとっても学ぶところが大きい。関心のある部分を読んで授業にのぞんでもらいたい。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

最低でも3分の2以上の出席が必要である。

テキスト

『聖書』(新共同訳(旧約統編つき)) 日本聖書協会(新共同訳であればどの版でも構わない。)

参考図書

百瀬文晃『キリスト教の輪郭』(女子パウロ会)
井上洋二『キリスト教がよくわかる本』(PHP研究所)

留意事項

この講座は、決して受講生をキリスト教徒にすることを目的としたものではないが、ホスピタリティには相手を受け入れることが不可欠であり、宗教の理解が必要である。その意味でもしっかりと学んで欲しい。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

キリスト教<キリスト教>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書概論	ET/PC	11105	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Emmanuel POPPON	必修	2			

授業の到達目標

聖書の基本的な思想、本格的な内容を形作っている要素を探求し、その思想や信念が人類の歴史・文化の中にどのように現れているかを参照し、知的満足のためではなく、心を開き、人間として真実に生きるための光とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのK(思いやり)、I(知性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

神と人間の歴史における出会いの物語である旧約聖書・新約聖書全般についての基礎知識を得て、具体的に聖書の箇所を読み、質問、分かち合いを促しながら聖書に親しむ。聖書記者が当時の世界像から取った題材としてこれを用い、彼らが言おうとしていること、その教えの内容を受け止められるようにする。それが単なる知識にとどまらず、人間とは何か、神とは何か、そして人間と神との関係は何かを一人一人の人生の中で味わう。

授業計画

- 1.聖書を読むということ—聖書について
- 2.イエスの告げた福音
- 3.イエスのもたらした解放—新たな出発
- 4.イエスの人との接し方—人を立ち上げさせる
- 5.リフレクション
- 6.ゆるしと愛—神の心
- 7.神の国(天の国)—山上の説教
- 8.祈り—「主の祈り」
- 9.イエスの力ある業—悪の克服
- 10.リフレクション
- 11.最後の晩餐—永遠のいのち—いのちの糧
- 12.イエスの誕生—クリスマス(降誕祭)
- 13.イエスの苦しみと死—受難と十字架の死
- 14.エマオの弟子たち—復活—希望の保証
- 15.リフレクション—全体のまとめ

授業の方法

講義形式と小グループで話し合う。リアクション・ペーパーを提出する。

準備学修

『聖書』(新共同訳)の最初、創世記1章〜11章まで、およびテキスト「根本問題をつかめ!」を読んでおくこと。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

1回の欠席につき5点減点とする。

テキスト

『聖書』旧約聖書統編つき 新共同訳 日本聖書協会 発行
「イエス登場!」(気合の入ったキリスト教入門) 来住英俊著 ドン・ボスコ新書
「根本問題をつかめ!」(気合の入ったキリスト教入門) 来住英俊著 ドン・ボスコ新書

参考図書

『旧約聖書』図解雑学 西宮慧著 ナツメ社
『聖書 Q & A』和田幹男監著 女子パウロ会
『聖書読解へのアクセス 50のポイント』湯浅俊治著 教友社

留意事項

聖書とルーズリーフ形式のノート(大きさは自由)を毎時間持参すること。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教海外研修		11109	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	選択	2			

授業の到達目標

本学と深い関係のあるアンジの聖フランシスコの足跡を辿ることによって大学の建学の精神を具体的に理解することを目的としている。キリスト教の土台にある愛と他者に仕える姿勢を生きたフランシスコの町、アンジを訪れる人の心に深い感銘を与え、人生への生き方に大きな影響力を持つ。この授業ではIn（国際性）に重点を置く。

授業の概要

中世、教会の権力が政治の世界でも強大な力を持ち、キリスト教の本質が危うくなった12世紀後半に現れたフランシスコは聖書に従った生き方を選び、その生き方によって現代に至るまで人々に大きな影響を与えている。ローマとアジアを中心に8泊9日の研修の旅を實施し、フランシスコゆかりの土地や自然、聖堂や絵画を訪ね、鑑賞することでキリスト教の世界の豊かさに触れていく。

授業計画

1. 研修に出る前の準備のクラス 第1回—イエスの生涯を中心に—
2. 研修に出る前の準備のクラス 第2回—フランシスコの生涯と思想—
3. 研修に関する具体的な準備の集まり
4. 研修の日程1日目：関西空港から 出発ミラノ着
5. 研修の日程2日目：ミラノにて大聖堂、聖アンブロジオ教会等を訪問
6. 研修の日程3日目：フィレンツェにて聖マルコ修道院、大聖堂を訪問
7. 研修の日程4日目：アンジの聖フランシスコ大聖堂、クララ教会等を訪問
8. 研修の日程4日目：サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会へ
9. 研修の日程5日目：アンジにてカルチェリの隠遁所を訪ねる
10. 研修の日程5日目：サンダミアノ修道院へ
11. 研修の日程6日目：ローマのフォロロマーノ、ラテラノ教会等を訪ねる
12. 研修の日程7日目：バチカン美術館、特にシステリーナ礼拝堂を訪ねる
13. 研修の日程7日目：サンピエトロ大聖堂

14. 研修の日程8日目：日本に向けて出発
15. 研修の日程9日目：関西空港着

授業の方法

事前の講義と研修旅行。

準備学修

イエスやアンジの聖フランシスコやイタリアについて書物や映像資料などで調べ、基礎知識を身につけておくこと。

課題・評価方法

その他

テキスト

川下勝「アンジのフランシスコ」清水書院、2004

参考図書

J.ヨルゲンセン著、佐藤要一訳「アンジの聖フランシスコ」ドン・ボスコ社、1988
 チェラノのトマス著、石井健吾訳「聖フランシスコ第一伝記」あかし書房、1989

留意事項

研修はフランシスコをよりよく理解するための、他者と協力をし、助け合う精神をもつこと。また、歩いていく所が多いので体力を鍛えておくこと。人間性の豊かさや広さ、深さや多様性に関心をもって望んでほしい。また視野を広げるために、クラスで言及する作品を自主的に読んだり、觀賞したりする努力をしてほしい。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書と現代	ET/PC	11113	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Emmanuel POPPON	必修	2			

授業の到達目標

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げ、それらに対する聖書の教え、キリスト教の説教、歴史的取り組みなどを紹介しながら、受講生一人一人が、主体的に考え、行動できる力を養うことを目標としている。この授業はKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）を学ぶクラスである。

授業の概要

現代は、科学技術が急速な進歩を遂げる一方で、様々な既成の価値が崩壊し、ますます多様化、多元化する社会の中で人々が自分にとって最も大切なものは何か、また、自分はどう生きていこうかを見つけるのが、大変困難な時代となっている。一般にポスト・モダンと呼ばれるこのような社会状況の中で長い歴史をもつ伝統宗教としてのキリスト教もその対応と存在意義が改めて問い直されている。キリスト教は現代社会が直面する様々な問題にどのような取り組み、答えようとしているのか。本講座では、現代社会との関わりにおいて21世紀におけるキリスト教のメッセージを読み解こうとする試みである。

授業計画

1. 序—現代を生きるキリスト教
2. I. 人間—真に人間らしく ①「男と女」—新しい関係を求めて
3. ②「家庭」—危機と再生
4. ③「生と死」—生命倫理をめぐって
5. リフレクション①
6. II. 社会—価値多様化と多文化共生を目指して ④「戦争と平和」—平和の作り方
7. ⑤「民族主義と差別」
8. ⑥「宗教多元主義の問題」
9. リフレクション②
10. III. 世界—グローバル化の進退の中で ⑦「富・貧・欲望」
11. ⑧「環境破壊とエコロジー」
12. リフレクション③
13. IV. 将来への展望—希望を抱いて ⑨「不幸・不公平」—人間の苦しみと神の義の問題
14. ⑩「世の終わりと希望」
15. リフレクション④

授業の方法

講義と受講生によるディスカッションを組み合わせで行う。

準備学修

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げるので、日頃から問題意識をもって、自ら考える習慣を身につけて欲しい。

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

授業の中でリアクション・ペーパーを書いてもらったり、ディスカッションを行う。それらへの積極的参加も平常点の一部として扱うので最低でも3分の2以上の出席がなければ学期末レポートを提出する資格を失う。

テキスト

【聖書】（新共同訳（旧約続編つき））日本聖書教会（新規に購入するならNI43DCH-APを勧めるが、新共同訳であればどの版でも構わない。）

参考図書

芦名定道、土井健司、辻学【現代を生きるキリスト教—もう一つの道から】 教文館。
 教皇庁正義と平和協議会【教会の社会教説綱要】 カトリック中央協議会。

留意事項

テキストの【聖書】を教室に持参すること。遅刻や早退は、明確な理由のない限り、欠席と見なす。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	①/②	11117	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	選択	2			

授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教に关しても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

授業計画

1. 導入
2. 聖書と歴史
3. 出エジプトと歴史研究(1)
4. 出エジプトと歴史研究(1)
5. 古代における宇宙観
6. 古代における天動説と地動説
7. 中世における天動説
8. コペルニクス(1)
9. コペルニクス(2)
10. ジョルダノ・ブルーノの地動説
11. ガリレオ・ガリレイ(1)
12. ガリレオガリレイ(2)
13. 科学の発達とキリスト教
14. 聖骸布
15. まとめ

授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

とくに定めない。

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 I	ET	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人/佐伯 瑠璃子/吉野 美智子/酒井 新一郎/有村 理	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)オリエンテーション
- (2)言語1
2. (1)言語2
- (2)オリエンテーション(体育室)
3. 図書館案内
4. (1)言語3
- (2)言語活動(PC使用実践)
5. (1)言語4
- (2)言語活動(PC使用実践)
6. (1)社会1
- (2)学生生活(学生相談)
7. (1)社会2
- (2)学生生活(課外活動1)
8. (1)社会3
- (2)学生生活(課外活動2)
9. (1)社会4
- (2)言語活動(PC使用実践)
10. (1)数学1
- (2)言語活動(比較分析)
11. (1)数学2
- (2)言語活動(情報収集法)
12. (1)数学3
- (2)言語活動(PC使用実践)
13. (1)数学4

(2)言語活動(発表力)

14. (1)確認試験1
- (2)おもてなしとマナーについて
15. (1)確認試験2
- (2)ホスピタリティー研修事前指導

授業の方法

演習形式
後半は言語活動、クラス討議や研修を行う

準備学修

テキストでしっかり予習・復習すること。eラーニングで学ぶこと。準備学修には60時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅱ			11207	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
各学科教員	必修	1				

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史について理解し、本学の学生としての自覚を深める。人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学びを通して、各自の考えをもち、内面的に自らを磨く。それに並行して行われるキャリアプログラムと合わせ、自身のキャリアデザインを築いていく。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、チームでプレゼンテーションを作り上げ、それを発信する力をつけていく。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムを通し、自身の将来に対する意識を確立させていく。授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

1. ポートフォリオ(学生カルテ)
2. KAISEIパーソナリティの研究項目の選択とチーム確認
3. 大学祭について①
4. 大学祭について②
5. 大学祭について③
大学の学びと就職
6. キャリアプログラム 1「卒業生によるピアサポート①」
7. キャリアプログラム 2「卒業生によるピアサポート②」
8. キャリアプログラム 3「社会で働く①」(キャリアセンター)
9. キャリアプログラム 4「社会で働く②」(学科教員)
10. テーマについてのグループディスカッションと研究と報告①
11. テーマについてのグループディスカッションと研究と報告②
12. グループのプレゼンテーションの準備作業
13. グループのプレゼンテーションの発表準備
14. 全学科の学生の前のプレゼンテーションと意見交換
15. ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

準備学修

Webで参照すること

課題・評価方法

- ①各教員から課題が与えられる。譜フィールドバックの方法は教員によって異なる。
- ②平常点40%、定期試験30% eラーニング30%

欠席について

欠席1回につき、3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定数を完了させること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学Ⅰ	ET/PC		11209	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	必修	2				

授業の到達目標

本学では、キリスト教的人間観に基づく人間教育を基本理念の一つとしている。本講義は、学生が1人の人間として社会に対する責任を果たすことができるよう、現代社会の様々な動きや問題点について考えていく。この授業では、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

現代は急速な変化の時代である。私たちはその中で一人ひとりが責任を持って生きていかねばならない。そのためには現代の動きや様々な問題などについて知り、考えることが不可欠である。本講義では、新聞などを利用して、この1、2年に起こった様々な問題について解説し、皆で考えていきたい。

授業計画

1. 昨年の時事問題(1)
2. 昨年の時事問題(2)
3. 1月頃の時事問題
4. 2月頃の時事問題
5. 3月頃の時事問題
6. 4月頃の時事問題
7. 5月頃の時事問題
8. 6月頃の時事問題
9. 7月頃の時事問題
10. 8月頃の時事問題
11. 9月頃の時事問題
12. 10月頃の時事問題
13. 11月頃の時事問題
14. 12月頃の時事問題
15. この1年の時事問題

授業の方法

講義、演習、発表形式。

準備学修

日々新聞やテレビ、インターネットで時事問題に関心を持ち、興味

を持った事柄については自分で調べてこと。家族や友人ともそのような話題を取り上げて、いろいろな意見を聞くこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

テキスト

特に定めない

留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人権教育論			11373	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	市教委人権同和教育室指導主事			

授業の到達目標

人権教育の基本的な概念を学習し、人権感覚を高め人権学習の実践力を養う。そして学校での人権学習の具体的な指導法を考察する。さらに人権学習の指導案を作成し実践的な模擬授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティーⅠ（知性）を養い、プレゼンや模擬授業、ロールプレイを体験する過程でK（思いやり）の諸能力を生かします。

授業の概要

毎回配布するレジュメ・資料を中心に授業を進める。人権感覚を磨く方法や、人権教育の在り方について考察し、実際の取り組み方を学ぶ。

授業計画

1. 人権とは(人権感覚、考え方)
2. 偏見と差別
3. 人権・同和教育とは
4. 人権尊重の教育
5. 子どもの人権Ⅰ(虐待、体罰、子どもの安全)
6. 子どもの人権Ⅱ(いじめ、不登校、権利条約)
7. 学校における人権学習Ⅰ(学習権、個性)
8. 学校における人権学習Ⅱ(複数指導、生活科)
9. 人権教育指導実践Ⅰ(項目別)
10. 人権教育指導実践Ⅱ(資料研究)
11. 人権教育指導実践Ⅲ(人権ゲーム、ロールプレイ)
12. 阪神淡路大震災と人権
13. 人権学習のコラム
14. 諸外国の人権教育事情
15. 人権教育の課題、まとめ

授業の方法

講義を中心に発表やロールプレイも取り入れ、模擬授業を実践してもらいます。

準備学修

世界中で報道される人権問題に関心を持っておくこと

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届け出ること。

参考図書

授業の中で適宜紹介します。

留意事項

ロールプレイやゲーム等で人権感覚を磨く訓練をします。

教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp

総合科目〈総合科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会科学概論			11377	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	選択	2	私立中学校教員(社会)、私立高等学校(世界史)			

授業の到達目標

本授業では、歴史学のあり方について学ぶ。歴史は小学校から高校まで必ず学ぶ科目であるが、暗記科目と見られることが多い。歴史学者が史料に基づいて如何に過去を明らかにしていくかを体験させる。この授業では、KAISEIパーソナリティのⅠ（知性）とⅡ（国際性）を養う。

授業の概要

歴史は決して暗記科目ではなく、史料に基づいて過去を再構成していく営みである。先行研究の成果である通説と対峙しつつ、修正・変更を加えて新しい通説を構築していくのが歴史学の進歩である。本授業ではヨーロッパ中世の開幕に関する諸説を、ビレンヌ理論を中心に紹介し、そのような歴史学の営みを受講生に体験してもらいたい。

授業計画

1. はじめに、歴史学とは何か
2. 時代区分について
3. ゲルマン民族の大移動
4. 古代文化没落説
5. 古代文化連続説
6. ビレンヌ理論の概要
7. 民族大移動後の地中海世界
8. 民族大移動後の地中海商業
9. イスラム教の成立と発展
10. 地中海商業の衰退
11. 地中海商業衰退の政治的影響
12. カール1世の戴冠と西欧世界の成立
13. ビレンヌ批判(デネット・ジュニア)
14. ビレンヌ批判(ポーリン)
15. まとめと試験

授業の方法

講義、討論、演習形式。

準備学修

授業内容の背景を知るため、古代ローマ史やキリスト教史に関する書物を読んでおくこと。(60時間)

課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

欠席について

通常欠席が5回を超える場合は受験資格を認めない。

テキスト

テキストは特に定めない。随時、史料のプリントを配布。

参考図書

とくに指定しない。

留意事項

私語は慎み、求められたときは積極的に発言すること。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。